

聞き合うことで考えを広げたり深めたりする面白さを感じながら、作品の特色を考える学習活動の工夫

1 単元名 作品の特色を考えよう (学習材名 「わらぐつの中の神様」(光村 5 年上)杉みき子作品他)

## 2 単元について

### (1) 児童の実態

児童は、これまでに、「新しい友達」で人物の行動や会話文に着目して心情の変化を読み取ったり、「千年の釘にいどむ」で、人物のキャッチフレーズを考えることを通して仕事に打ち込む人物の生き方や考え方を読み取ったりする学習を行ってきた。これらの学習を通して、叙述と関連づけて登場人物の心情を読み取ることができるようになってきている。また、文章から読み取ったことについて自分の考えをもつということを繰り返し行ってきており、抵抗なく取り組むことができる。しかし、叙述からその表現の効果を考えたり、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることは十分とは言えない。

対話を通して互いの考えを聞き合うことについては、ほとんどの児童が話を受け止めてもらえることに喜びを感じている。実際の対話では、相手の話をしっかり聞こうとしているが、話の意図を考えて対話を進め、考えを広げたり深めたりすることは十分にできているとは言えない。相手の話からどの言葉に着目して対話を進めるべきか、瞬時に判断することが難しいためである。

これらのことから本単元では、読むことの交流に対話を位置付け、叙述に着目して表現の効果や根拠を聞き合うことにより、自分の考えを広げたり深めたりする力を付けることが大切であると考える。

### (2) 主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」である。この力を培うためには、「登場人物の相互関係や登場人物と物との関係から、心情や場面の描写をとらえること」「叙述から読み取ったことについて自分の考えをまとめること」の力を育てていく必要がある。本単元では「作品の構成、人物像、表現など作品の特色を叙述に即してとらえ、それらについて自分の考えをもつこと」が指導の中心である。

このような力を育てるために、主な学習材として「わらぐつの中の神様」を用いる。この話は、現在、過去、現在と場面が変わり、最後の場面では過去の場面の語り手(おばあさん)が登場人物(おみつさん)であったという種明かしをする仕掛けが興味をひく三部構成になっている。雪国ならではの静けさや温かみを醸し出す情景描写や、登場人物と象徴物(わらぐつや雪げた)の関係を読み取りながら、登場人物の心情や作品の主題に迫ることができる。また、次の日に履いていく靴が乾かずに困っていたマサエが、次の日に何を履いていったのかを考えることに興味をもちながら、マサエの心情の変化や作品の特色を生かしつつ、作品の続きを創作できると考える。

### (3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

本単元のみとおす段階では、杉みき子の作品や雪国の暮らしを知ることができる本のブックトークを行う。その後「わらぐつの中の神様」を読み、初発の感想を交流しながら、作品の特色がどのようなところに表れるのかを考える。作品の特色をとらえ、それらを生かして「わらぐつの中の神様」の「次の日の話」を創作する言語活動を行う学習計画を立てる。同時に、並行読書として作品の特色を比べることができる話を読ませていく。

ふかめる段階では、作品の特色として、情景描写、象徴物、人物像を取り上げる。他作品と比べて読みながら情景描写や人物と象徴物の関係を考えることによって、人物の心情の変化や作品の主題について自分の考えをもたせていく。このような学習を通してマサエのわらぐつに対する心情の変化を考え、次の日どのような行動をとったのか想像しながら「次の日の話」を書くようにする。「わらぐつの中の神様」の作品の特色を生かしながら、場面の設定や情景描写、表現の仕方などに各自の考えが表されると考える。

まとめる段階では、「次の日の話」について、作品の世界観を味わうための交流を対話で行う。共感的に聞き合うことによりお互いの表現のよさを認め合うことができる。さらに、自分の「次の日の話」との共通点や相違点に気を付けたり、理由や根拠を聞き合ったりすることによって、作品世界に対する自分の考えや感じ方を広げたり深めたりすることができるようにさせたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

- ・物語の特色に関心をもって読もうとする。
- ・聞き合うことで考えを広げたり深めたりする面白さを感じ取っている。

#### (2) 読むこと

- ・作品の特色を考えながら読み、それらについて自分の考えをまとめることができる。

#### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

### 4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
① 作品の特色に関心をもって読もうとしている。 ② 聞き合うことで考えを広げたり深めたりする面白さを感じ取ろうとしている。	① 情景描写, 象徴物, 人物像などの作品の特色をとらえ, それらについて自分の考えをもっている。	① 比喩や反復など表現の工夫に気付いている。

### 5 学習指導計画 (7時間)

#### 〔関連する前の単元〕

#### 「本に親しみ, 人間を見つめよう」

- 登場人物の心情の変化を叙述に即して読み, 自分なりの感想をもつ。

#### 〔関連する対話の指導〕

- 話の中心を考えて聞く。
- 話の筋に沿って相手の意図や根拠などを聞き返す。



段階	学習課題 (内容)	学習活動と時間	評価規準 (方法)
みとおす	○単元のねらいを知り, 見通しをもとう。	・初発の感想を書き, 交流する。 (1)	アー①初発の感想を書いたり話し合ったりしながら単元の見通しをもっている。 (ノート, 発言)
ふかめる	○作品の特色を考えよう。(情景描写・色・作品全体の情調)	・雪国の様子を描写している言葉や対比的に使われている色に着目して読み, それらについて自分の考えをもつ。 (1)	イー①情景描写や色に着目して読み, 作品全体の情調について自分の考えをもっている。 (ノート, 発言) ウー①反復や比喩に気付いている。 (発言)
	○作品の特色を考えよう。(登場人物とわらぐつの関係)	・登場人物とわらぐつの関係を読み, わらぐつは何を象徴するものか, 自分の考えをもつ。 (1)	イー①人物と象徴物との関係に着目して読み, その役割や意味について自分の考えをもっている。 (ノート, 発言)
	○作品の特色を考えよう。(登場人物の心情)	・マサエのわらぐつに対する心情の変化について自分の考えをもつ。 (1)	イー①人物の心情の変化に着目して読み, 自分の考えをもっている。 (ノート, 発言)
	○作品の特色を生かして「次の日の話」を書こう。	・作品の特色を生かしながら, 次の日の話を書く。 (1)	イー①作品の特色をふまえて「次の日の話」を書いている。 (ノート)
まとめる	○「次の日の話」を読み合い, 作品の特色について考えよう。	・「次の日の話」を交流することによって, 作品の特色についての考えを広げたり深めたりすること。 (1) 本時	アー②聞き合うことで考えを広げたり深めたりする面白さを感じ取ろうとしている。 (対話, ノート) イー①作品の特色について自分の考えを広げたり深めたりしている。 (対話, ノート)



#### 〈生かす単元〉「学習したことを生かして」

- ・登場人物の心情や場面についての描写をとらえ, 優れた叙述を味わいながら読み, 自分の考えをまとめる。

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

- ・聞き合うことで考えを広げたり深めたりする面白さを感じ取っている。〔対話の情意的要素〕
- ・「次の日の話」を交流することによって、作品の特色についての考えを広げたり深めたりすることができる。

### (2) 展開

段階	学習活動 (○主発問)	時間	◇学習内容	教師の関わり方 ☆評価(方法)
みとおす	1 これまでの学習を想起し、本時の学習課題を確認する。  「次の日の話」を読み合い、作品の特色について考えよう。	3	・「次の日の話」を書くにあたり、自分が取り入れた作品の特色を確かめる。	・前時に書いた「次の日の話」には、「わらぐつの中の神様」の作品の特色が受け継がれるとともに、書き手の意図によって、さまざまな表現の仕方が生じることを確認し、学習への関心をもたせるようにする。
ふかめる	2 対話による交流の仕方を確認する。	5	◇対話のめあてを確かめること。 ・話に応じて感想を話す。 ・相手の考えを共感的に聞きながら、詳しく知りたいことを質問してしっかり聞く。	・「次の日の話」に表現された感じ方や考え方の違いを楽しみながら対話ができるようにするために、共感的に聞いたり、感想を伝えたりさせる。 ・「わらぐつの中の神様」のどのような作品の特色から「次の日の話」を考えたのか、その理由や根拠を聞き合うようにさせる。
	3 お互いの「次の日の話」を聞き合う。  (1)「次の日の話」の交流をする。 (対話)  ○自分の書いた「次の日の話」と比べながら聞き合みましょう。	22	◇対話で聞き合うことにより、叙述と関連付けて、作品の特色をとらえること。  ・～に気を付けて書いたのですね。○○という言葉を使ったのはどうしてですか。 ・主人公はどうしてこのように話したのですか。 ・この会話文はこの人物にぴったり合っていると思います。 ・読んでみて、～ということを感じました。～を学びました。	・相手を変えて2回対話を行うことにより、より多くの考えにふれられるようにする。  ☆聞き合うことで考えを広げたり深めたりする面白さを感じ取ろうとしている。(対話・ノート) ☆交流することによって、作品の特色についての考えを広げたり深めたりすることができたか。(対話・ノート) 〔努力を要する児童への支援〕 自分と対話相手の叙述を比べて読み、共通点や相違点を見付けさせる。さらに、それについて思ったことを伝えるようにさせる。
	(2)「次の日の話」の交流をした感想を書く。	12	・対話したことを振り返り、感想を書くこと。	・対話相手に学んだことや、作品の特色について考えが広がったり、深まったりしたことを確かめるようにする。
まとめる	4 学習の振り返りをする。	3	・単元の学習を振り返って、学んだことを発表する。	・単元を通して学んだことを確かめ、これからの学習に生かすことができるようにする。